

# 築瀬八幡平の首塚(安中市)

築瀬二子塚古墳の南西側に築瀬八幡平の首塚の行き先表示があった





ここが築瀬八幡平の首塚/東側から見たところ



正面のマウンドは元々円墳なのだが、その一部に150体分の頭蓋骨が埋められているのが見つかって、首塚と称されることになった



これは万霊堂/首塚は戦国時代の合戦の犠牲者で、江戸時代中期またはそれ以前にここに改葬されたと考えられている



## 築瀬八幡平の首塚

安中市指定史跡 昭和三四年一月九日指定

この首塚は、碓氷川北岸の河岸段丘上に位置する旧原市町二ノ号墳（円墳）の墳丘に幅一メートル、長さ二メートルの穴を掘り、そこにおよそ一五〇体分の頭蓋骨を埋めてあったものである。

この首塚は、昭和六年三月十日に墓参りにきた小学生によって偶然発見された。その後、昭和二十七年二月に東京大学人類学教室鈴木尚博士によって調査された。調査の結果、古墳の石室の外側に約一五〇個分に相当する頭骨が山と積まれ、その上を天明三年（一七八三）の火山灰がおおっていることがわかった。不思議なことには頭骨には下顎がなく、四肢骨も発見されないと、ところから多分どこか別の場所に埋葬されていたものをここに仮葬したものと推定される。これらの頭骨を人類学的に研究したところ、今の日本人にくらべて長頭・短顔・広鼻で鼻の付根が低く、中世の日本人の特徴を示している。これらの人骨には刺創もあるところから考えて、恐らく戦国時代に近くの城が陥落する際の犠牲者と考えられるが、当時遺体をまとめて埋葬したものを、江戸時代中期又はそれ以前に村民によって偶然発見され、ここに改葬されたものと思われる。

この首塚がいつ誰によって造られたかを示す史料は残されていないが、永録四年（一五六一）に武田信玄がこの付近帯に八幡平陣城を築き、安中城と松井田城の間を分断した。当時、松井田城主安中忠政、安中城主安中忠成親子は、箕輪城主長野氏に属し、武田信玄と戦いを交えていた。

この首塚は安中市の中世を物語る遺跡であり、首塚で出土した人骨は貴重な人類学上の資料である。

安中市教育委員会



供養塔も立っている





北東側から見たところ



北西側から見たところ



南側から見たところ



こんなものも



右手を見ると築瀬二子塚古墳がある/このエリアには戦国時代の八幡平陣城があり、物見台としての役目を負っていたと云う



その築瀬二子塚古墳から築瀬八幡平の首塚(南西方向)を見たところ/この方向に八幡平陣城が所在したようだ



参考ホームページ

<http://www.japanmystery.com/gunma/yanase.html>

[http://www.sukima.com/31\\_usui08/61kubi.html](http://www.sukima.com/31_usui08/61kubi.html)

<http://www.zephyr.dti.ne.jp/bushi/siseki/yanasekubi.htm>

<https://ameblo.jp/doghayahide/entry-10530606999.html>

<http://tigerdream-no.blog.jp/archives/8538188.html>

<https://tabi-and-everyday.com/archives/10536>

<https://senjp.com/annaka-hachiman/>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/annaka/kubizuka.htm>

<http://kdshiro.blog.fc2.com/blog-entry-1706.html>

<http://gunmahoyadi.cocolog-nifty.com/blog/2017/05/post-13.html>

<http://scary.jp/supot/gunma/hachimandaira/>

